

アル・ワリード王子表敬訪問。
王子所有のビル、ホテルなどを
含む「キングダム・タワー」の
最上階(66F)の会長室で



サウジアラビア王国と日本のかけ橋 開けゴマ! 作戦



鰐淵 美恵子
銀座テラーグループ
取締役社長

平成22年2月25日～3月7日、私は経済産業省・財団法人中東協力センターからのミッション「サウジアラビア王国 女性&子供向け消費財のニーズ把握及び将来的に現地製造も含めた調査」で、日本初の女性視察団団長として、ジェッタとリヤドを訪問しました。

現在、日本とサウジアラビアの貿易対比は「輸出8,139億円 輸入52,927億円」(2008年 出典:JETRO貿易統計データベース)。輸入が大きく超過しています。この貿易不均衡の原因はなんだろう?“Made in Japan”の良品を輸出できないものか? という思いが私をサウジアラビアに向かわせたといっただいでしょう。

サウジアラビアは男性・女性で社会が二分されています。しかも日本には、女性社会についての情報はほとんど届きません。今回見聞きしてきた情報によると、女性の大半は富裕層に属し、夫とは財布を別にする女性が多く、銀行口座の7割も女性名義とのことでした。しかも日本や世界と同様にサウジアラビアの消費の牽引車は女性ようです。

ジェッタでは商工会議所、銀行のほか、ファッション関係など企業(3社)、国立女子大学(1校)を訪問し、Princess主催の「ウエディングフェア」にも出席しました。首都リヤドではアル・ワリード王子(Prince Al Waleed)を表敬訪問しました。王子は投資家・

企業家として知られ、慈善事業や女性の地位向上に貢献されています。また、アデラ王女(Princess Adelah)とお会いすることもかないました。王女はサウジアラビアのオピニオンリーダーとして知られています。王女との会見で、欧米とは異なるオリエンタル文化を尊重しながら、日本とサウジアラビアの友好関係を深め、「日サ女性会議」の実現に向けてお互いに協力することを確認し合いました。

サウジアラビアでは女性経営者が26%(日本は3%)を占め、また国家公務員の38%が女性とのことでした。男女間の差別は無く、唯一の違いは有給休暇が男性は1カ月、女性は2カ月あることです。女性はヨーロッパのライフスタイルが好きで、ファッションもフランス、イタリアを好み、アバヤの下はブランドづくめが理想です。日本人の女性より元気があり、消費が大好きで、ビジネスにも意欲的です。日本人は礼儀正しく正直でしかも几帳面である。そのような国の、商品は品質が良いという認識で、自動車、家電品は皆知っています。

では、なぜ日本製商品が受け入れられないのか? 第1は価格面の問題、第2はアプローチをしていないことが大きな原因です。今後サウジアラビアとの交流を深めるためには、戦略的なアプローチと現地でのパートナー人脈が必要です。サウジアラビアをはるか中東の産油国で終わりにしますか? それともその灼熱と砂漠の中に国家戦略を持って栄光を求めますか?

さあ「開けゴマ! 作戦」の開始です。